

和歌山県立医科大学青洲基金 寄附者さまからのメッセージ

「寄附申込書」に添えられたメッセージ、またはオンラインでの寄附申し込み時に入力していただいたメッセージをご紹介します。

お名前公表を希望されない方からのメッセージについては、寄附者ご芳名欄を「—」として掲載させていただいております。

個人情報に関わる部分など、メッセージの一部に修正を加えている場合がありますので、あらかじめご了承ください。

受入年月日	寄附者ご芳名(敬称略)	メッセージ
令和5年4月28日	天野 和幸	入院中、部屋を忘れやすい患者さんのために入口ドアの取っ手に熊のぬいぐるみが縛って有ったり、点滴スタンドの車輪の動きにまで気にして頂き(自分自身は気にならなかったのですが)交換してくれたりして色々気を遣って頂き嬉しく感じました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年5月31日	—	和歌山方向から病院駐車場へ車で移動する場合に研究棟と病院の間の通路を横断される方が横断歩道以外の所を斜め横断したり何人もまとまって横切ったりされてヒヤッとしたことが何度もあります。歩道に簡単な柵とかプランタを並べるとかが有ったらなあと思います。
令和5年6月30日	—	外来で訪れて幾度か少し不調だったことが有り、その都度色々な検査予約を入れて頂き有難く感謝しております。何かのお役に立てればと思います。
令和5年7月20日	—	大変お世話になっています。ありがとうございます。
令和5年7月31日	—	入院中トイレの洗面所で倒れた時、たまたま通りがかった看護師さんが気づいてくださり病室まで運ばれた後は先生や大勢の看護師さんが駆けつけて心配して下さりととても有難く感じました。何かのお役に立ててくださればと思います。
令和5年7月31日	—	医学生時代に過ごした和歌山が懐かしいです。医師として育てて頂いて感謝しています。僅かですが、感謝の気持ちです。お役に立てて頂ければ幸いです。
令和5年7月31日	細田 実季	子ども2人が、出生前から通院・入院・手術と10年以上、たくさんの医師・看護師・コメディカル等、病院スタッフの方々にお世話になっています。ずっと何かの形でお礼をしたいと思っていたところ、今回、青洲基金の存在を知り、少しですが寄付させていただくことにしました。病院のスタッフが働きやすい環境の整備や、可能でしたら小児科病棟プレイルームの備品購入に役立てていただけるとありがたいです。(入院中はプレイルームでよく遊ばせていただきました。入院中の子どもたちが少しでも楽しく療養できれば嬉しく思います。)今後も長くお世話になるとは思いますが、よろしく願いいたします。
令和5年8月31日	—	主にかかっている診療科以外に複数の診療科にかかっており、診療科により採血の検査項目が違うのを連携して一回で済むように診察日や項目を調整してもらったり採血のない診療科とは診察日を合わせてくれたりして頂いたことがあり助かりました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年9月29日	—	入院中、食事が終わった後、診療科にもよるのかもしれませんが、看護師さんが毎回食べ残した量をチェックしてお膳を引き上げてくださり、体調不良などでほとんど食べられないことがあり、お椀の蓋を開けた時、一瞬悲しそうな顔をされたのを見て申し訳なく心配して下さっているのを感じました。何かのお役に立てればと思います。

受入年月日	寄附者ご芳名(敬称略)	メッセージ
令和5年9月29日	辻脇 義一	本年7月31日附属病院にて肝細胞ガンをロボット支援下で腹腔鏡手術で消化器外科の宮本篤先生執刀で行って戴きました。その後の回復も順当で感謝しております。このような先端技術がひろく行き渡ることを期待して細やかながら寄附をさせて戴きます。
令和5年10月18日	毛利 照美、毛利 善一	理事長様・学長様の御挨拶に私共の思いも全て込められています。ご発展、人類への貢献をお祈り申し上げます。
令和5年10月31日	天野 和幸	入院中、点滴が首の横から入れるタイプであったため、浴室シャワーの際、お湯がかからないように毎回シートで首周りをカバーしてくださり、とても面倒くさい作業にも関わらず、いやな顔ひとつされず大変有難く感じました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年11月30日	天野 和幸	入退院を繰り返し治療中、同じ看護師さんが都度担当になり、よく面倒をみてくださり、配置転換で他の科へ移動することになった際はとても寂しがって来て本当に有難く思いました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年12月20日	富士 信子	息子が貴大学附属病院でお世話になり、今は元気に小学校へ通っています。医療の未来のためにご活用ください。
令和5年12月27日	笠野 有里	昭和30年 和医大卒業生の同窓会「三十会(みそのかい)」からの寄附です。亡き父、笠野勇が幹事をしていました同窓会で御健在の方と相談の上、お預かりしていた会費を今回の寄附とさせていただきます。
令和5年12月29日	—	外来で訪れた時、入院時に手術して頂いた先生と名前が同じであったことから診察記録を調べて頂いた所、5年ぶりにお会いしたことがわかりとても懐かしく思い出されました。何かのお役に立てればと思います。
令和6年1月31日	—	入院中、赤血球や血小板の輸血を延べ30回近く受けました。見ず知らずのたくさんの方々の献血のおかげと感謝しております。何かのお役に立てればと思います。
令和6年1月31日	佐山 圭子	卒業して35年になります。今年は30年ぶりに和歌山に行きました。山本宏先生を偲ぶ会に参加させていただきました。とても懐かしく思いました。医師に育てていただき、和歌山県立医科大学に感謝しております。少ない額ですが、何かにお役立ていただければ、嬉しいです。遠く離れた地ですが、小児科開業して12年経ちました。今は、山本先生がおっしゃっていた「生まれてきた納得」を赤ちゃんに持ってもらえるような子育てを応援したくて、産後ケアにチャレンジしています。本当に和医大に入学してよかった、山本先生に出会えてよかった、心からそう思っ感謝の気持ちで、日々仕事をしています。
令和6年2月29日	天野 和幸	入院してすぐに点滴のため、首の静脈に点滴用カテーテルを挿入するのですが、挿入の際に重苦しい痛みがあり、うまく入らず何回もやり直すことがあり、苦痛でしたが、看護師さんが慰めるように背中を軽くたたいてくださり、有難く感じました。何かのお役に立てればと思います。
令和6年3月29日	—	入院中、本来の診療科病棟から別の診療科での手術のため部屋を移動することになりましたが、主治医の先生が訪ねて来てくださったり、部内異動で3か月間、別の部署へ移動されることになり、元の部署に戻られるとき挨拶に来られたりして、とても懐かしくうれしく思いました。何かのお役に立てればと思います。

寄附者さまからのメッセージをお待ちしております。